

市民と市役所が

ツナガル通信

発行日：平成28年2月25日

発行元：ESD・市民協働推進センター

岡山市役所本庁舎2階（月～金、9:00～17:00）

TEL：086-803-1062/070-5055-7589

Vol.
9



Contents

>> 特集・

「岡山市協働のまちづくり条例
改正記念フォーラム」開催！

「岡山市協働のまちづくり条例改正記念フォーラム」を開催しました！

「岡山市協働のまちづくり条例」の平成28年4月1日施行を前に条例の可能性と活用を考える記念フォーラムを開催しました。

■日時：平成28年2月17日（水）13時～16時（場所：岡山市勤労者福祉センター）

■参加者：207名（目標200名の103%） ■参加者満足度：平均79点（目標80点以上の98%）

多様な主体で「協働」のスタート！

当日は207名という会場を埋め尽くすほどの多くの方にご来場いただきました。

参加者の所属も地縁組織、NPO、行政、企業、大学と多岐にわたり、年齢層も20歳代から80歳代と幅広く、まさに多様な主体で構成されたフォーラムとなりました。開会から閉会までパネリスト、参加者の熱気が会場に溢れており、新しいスタートへの期待を感じる会となりました。



（パネルディスカッションの要旨は裏面をご参照ください。）

参加者からの声（アンケートより抜粋）

- ・多様な立場のパネラーからの情報発信があり、条例の趣旨も伝わりやすかった。
- ・条例改正により、より多くの市民が多様な課題に取り組むきっかけになればという発言に感銘を受けた。

》期待していること

行政に	町内会、NPO法人、企業等に
<ul style="list-style-type: none">・今の気持ちは何年かあとも継続していくこと。・協働するという意味をどのような部署でも共有していること。	<ul style="list-style-type: none">・行政に対して要望する態度だけではなく、それぞれの強みを生かしながら、弱みを補完しながらよりよい岡山にするために協力しあうというスタンスで協働していくこと。

「もっと説明時間が欲しい」「全市で説明会を！」

など、もっと説明の機会が必要なのでは？という声も沢山いただきました。そこで…

協働のまちづくり条例テラス開催！！

動画上映、パネル展示、フォーラム開催などを行い、より多くの方に「協働のまちづくり条例」を知っていただく機会を用意しました。詳細はホームページまたはチラシをご覧ください。

》日時：平成28年 3月29日（火）13:00～19:30、3月30日（水）13:00～19:30

3月31日（木）10:00～17:00、4月1日（金）10:00～17:00

》会場：岡山駅西口 リットシティビル2階「ひかりの広場」

パネルディスカッションから読み解く「協働のまちづくり」

パネリストの皆様には地縁組織、NPO、企業、行政と異なる立場での活動紹介と協働の在り方についてお話をいただきました。今回はその一部をご紹介します。



■ 島村誠一さん(宇野学区連合町内会 会長)

地縁組織

団体の活動	体育館の下にコミュニティハウスがつけられたことを契機に学校や子どもたちのために役立つコミュニティ活動をみんなで考えた。校長先生から「宿題をしない子どもたち」のことを聞き、検討した結果、放課後の宿題時間を支援する「宿題教室」を実施することになった。子どもたちが宿題をできるようになっただけでなく、子どもと地域の大人との顔がみえるつながりの場になっている。
協働に関して	子どもの課題は地域の課題であり、学校・家庭の問題だけではなく地域のこととして捉え活動している。現在も既に学校との協働連携・地域参加は行われているが、課題解決のためにはより一層の連携とリーダーが重要であると考えている。
今後の協働に必要だと感じること	条例の6条にある人材養成を行政でぜひ進めてもらいたい。地域課題に自分事として関わることができる人が必要。

■ 河上直美さん(NPO法人タブラサ 理事長)

NPO法人

団体の活動	若者のアイデアでまちづくりと環境配慮をテーマとして12年活動している。西川中心にキャンドルナイト、シェアキャンドル、コーディネートなどの活動を行っている。
協働に関して	緑道公園のキャンドルナイトで街灯を消したかったが公共空間での街灯消灯には行政の理解は当初得られなかった。活動を続ける中で理解が広がり街灯の消灯が実現した。現在は、地域の賑わいを生み出すパートナーとして、市が行う歩行者天国・歩道拡大の社会実験にも関わっている。また、まちづくりに取り組む若者中心の4団体で西川のまちづくりを進めていく「協働宣言」を発表した。
今後の協働に必要だと感じること	岡山市は横のつながりが弱いと言われるが、個々の取り組みに費やしてきた時間が長かっただけかもしれない。広くゆるやかにつながっていけるタイミングが来たのではないかと感じている。

■ 浅野浩一さん(株式会社サンキョウ-エンピックス 取締役業務部長)

企業

団体の活動	会社は社員数 33 名の中小企業。排水などの有害物質の研究等を行う。人と自然と産業の調和を目指すことを経営指針に掲げている。まずは町内の清掃活動から始めた(年9回)。絶滅危惧のダルマガエルの保存や、プレハブの学童保育の環境改善のためのゴーヤカーテンの設置などを行った。
協働に関して	企業(株式会社)は性質上、利益を考え動くが、自分たちの仕事が社会課題と直面した際、会社の理念に基づき、その解決のために働きかけることもある。
今後の協働に必要だと感じること	企業は地域を知らないが同様に地域の皆さんも企業を知らないのではないかと。だから、知り合うことが必要。忙しすぎる子どもたちのため、残すもの、残してはいけないものを見極めていきたい。

■ 赤坂 隆さん(岡山市政策局地域政策担当課長)

行政

団体の活動	市全体の政策の企画立案。中心市街地活性化では、回遊性向上の社会実験や内山下小学校の活用実験など。
協働に関して	中心市街地の魅力づくりで行政ができることは限られており市民と一緒に考えていくことが不可欠となる。活動に取り組む市民の皆さんの笑顔が来場者の笑顔を引き出す。個人の魅力がまちの魅力になる。市民レベルで広がることでまちが楽しくなり、自分自身の人生の糧にもなる。
今後の協働に必要だと感じること	それぞれの役割を活かし補完し合うために対話を重ねていくことが大切だと思う。条例を活かして協働していきたい。市役所職員も意識改革をしていく必要がある。